

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年1月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502934		
法人名	有限会社ひよし		
事業所名	グループホーム ひよし		
所在地	〒721-0972 広島県福山市日吉台3丁目13-7 (電話) 084-948-6117		
自己評価作成日	2019/12/13	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&JigyosyoCd=3471502934-00&PrefCd=34&Versio
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和2年1月16日(木)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームひよしは日吉台という静かな住宅街にあります。開設して15年になりました。敷地内には草木がたくさんあり、季節の移ろいを楽しみながら穏やかに生活しております。理念に掲げているように家庭的な雰囲気を大切に、生き生きと笑顔いっぱいの暮らしができるように創意工夫を心掛けて日常生活のお手伝いをしています。地域や近隣の事業所とのネットワークを図りながら協力体制も充実しております。運営推進会議を通して今後も地域の人に開かれた事業所としての役割やボランティアの受け入れ体制にも力を入れ地域や家族との繋がりを推し進めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームひよしは、住宅街に位置し、リビングからは町並みが一望でき、夜などは利用者が夜景を眺め、くつろぎの時間となっている。日々のサービス場面において、常に理念に基づいたものになるように管理者と職員は話し合い、確認しながら理念の実践につなげている。認知症がある高齢者の日常生活を地域住民の支援の基、住み慣れた環境と家庭的な生活維持を目的に、サービスの提供を行っている。地域への貢献・社会福祉を担う者の育成を使命とし、開放された施設運営を心掛けている。食事作りでは、利用者一人ひとりの好みや食べたい物を聞きながら献立を立て、旬の食材を使って、利用者と職員と一緒に食事を作り、同じテーブルで同じ物を食し、後片付けをしている。管理者は、利用者が笑顔で過ごし、喜びのある生活が送れる事を念頭に置き、日々、職員と共に前向きに支援に取り組んでいる。

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念の中に地域密着の言葉は無いが、その意義を踏まえたものと共有しており日々のケアに繋げている。	理念として「人間としての尊厳」「家庭的で暖かい雰囲気」「能力に応じた自立支援」を事務所に掲示している。他にユニット目標・個人目標を立て振り返りを行っている。ユニット会議で月2回理念について、又、個人目標について前・後期話し合い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域の敬老会や文化祭など、できる限りイベントに参加している。 また、運営推進会議では事業所の実践を伝えるようにしている。	町内会に加入していて、夏祭りや文化祭に参加し、作品展には利用者の作品の「屏風」を出品している。市民センターでは、小地域ネットワークの近隣の事業所(グループホーム・小規模多機能事業所等)が集まって、健康体操・災害・身体の健康・食育・百才体操等を行い交流している。中学校の職場体験を受け入れ、利用者とのふれあいの場を設けている。地域のボランティアの方が、フラダンス・日本舞踊・二胡・大正琴・手品等を披露され、楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所にキャラバンメイトがおり、要請に応じて地域住民に 向け認知症になっても地域で楽しく暮らす街づくりの推進を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、取り組み状況を公表・報告している。新たな取り組みについても相談し、助言を頂き協力も得ている。	地域包括支援センター職員・学区連合会・東部保健福祉課・消防署・他事業所・職員等が参加して、2ヶ月に1回開催している。行事の開催報告・地域交流活動の報告・消防訓練・利用者の状況や活動・外部評価結果・ヒヤリハット・事故等を報告して、話し合っている。そこでの意見・要望等をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議にてサービスの内容、取り組みを伝えている。 今後も助言を受けながらサービス向上に活かしたい。	市担当者とは、運営推進会議参加時に情報交換をしている他、管理者が書類提出時に相談して、助言を得ている等、協力関係を築いている。小地域ネットワークグループとして、近隣事業所・市社会福祉協議会・地域包括支援センター職員が2ヶ月に1回集まり、地域のニーズや把握・入居状況・研修を行って連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に施錠することなく解放されている。また身体拘束についても、ひよし役員 ホーム長 管理者 主任で構成された身体拘束適正化委員会が3ヶ月毎に開かれ、結果はユニット会議にて全職員に周知徹底されている。日々のケアを行う中でも折に触れ話し合い身体拘束をしないケアが行われている。	年間を通じて各研修を計画的に実施しており、身体拘束の研修やコンプライアンスを主とした研修等を行い、弊害や禁止となる具体的な行為、言葉による拘束も含めて正しく理解し、利用者の気持ちを大切に、感謝・尊重・思いやりの気持ちを共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーテロックについては、管理者がその都度注意している。身体拘束適正化委員会が3ヶ月毎に開かれ、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に勉強会が開かれている。スタッフも介護ストレスが蓄積しないよう話し合う場を多く持ち、日々のケアにおいてもスタッフ同志 注意を払っている。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	権利擁護に関する研修を受け常時相談に応じる体制は整っているが現在希望される人はいない。今後も研修等参加し学ぶ機会を大切にしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には見学や体験をしていただき、利用者・家族の不安や心配事等しっかり傾聴し納得されるまで時間をかけて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時等、随時 意見・要望をお聞きするよう努め、運営に反映させている。	電話や面会時、行事参加時、施設利用料の支払い時に、利用者の様子を手紙や写真で渡したり、毎月事業所たよりを作成し、状況を知らせて、意見を言い易いように工夫している。家族からの意見や要望は検討し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	提案があれば、日常の会話やミーティング等、いつでも聞く機会が設けられ定例会にて代表者に報告。反映されている。	毎日の朝礼、夕礼、定期的に行われるユニット会議や職員個別面談・日々の業務の中等、意見や提案が出しやすいように、傾聴の姿勢を心がけている。そこで出た意見や提案は検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に自己評価表が配布され、個々の努力や実績が評価されている。また、職員は年間個人別研修を設定することで、向上心を持って行動できている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一人ひとりがスキルアップ出来るよう、新たな情報等は毎日の申し送りやユニット会議で常時共有しあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修参加等により同業者とのネットワークを広め他の事業所と情報交換を行っている。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には出来るだけ施設見学や体験をしていた だき、雰囲気慣れていただくことで、安心して思い が話せる様配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	現在に至るまでの家族の困難をしっかりと聞きし、 思いを共感する。また情報交換も行い、より良い関 係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家 族等が「その時」まず必要としている支援を 見極め、他のサービス利用も含めた対応に努 めている。	本人・家族より状況・状態をしっかりと聞きし、家族 関係や経済状況また、今後の生活への思い等も含 め 在宅介護中の担当ケアマネからも意見をお聞き しながら施設入所の必要性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置か ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いて いる。	個々の出来る事探しを心がけ、仕事を提供する事 で共同生活が実感できるよう配慮している。家事等 すべての日常生活において、共に助け合う関係作 りが築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置か ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に 本人を支えていく関係を築いている。	面会時等に本人様の状態を詳しくお伝えし、色々 と意見交換を行い良い関係が築けるように努めてい る。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている。	友人・知人どなたでも自由に面会ができます。ま た、面会の際には遠慮なく楽しい時が過ごせるよう 配慮しています。	家族の面会や親戚の人・近所の人・友人等の来訪がある 他、電話の取次ぎの支援をしている。外出時には、帰途利用 者の自宅付近をドライブしている。家族の協力を得て、外出・ 外食・買物・墓参り・法事への出席等、馴染みの人や場所と の関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握した上で、合同活動・共 同作業の支援を行い、共に支えあいながら生活が 送れるよう環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これま での関係性を大切にしながら、必要に応じて 本人・家族の経過をフォローし、相談や支援 に努めている。	在宅生活に復帰された方は無く施設同士の連携は ある。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や仕種などから本人の希望・意向を把握し、ミーティングや毎日の申し送りにて情報交換を行い、本人様の「こだわり」「想い」を大切に検討を行っている。	利用者と日々関わる中で、「困ってる場面」「楽しんでる場面」を「気持ちシート」に記録を残し、意向や要望を汲み取り、家族の思いや意向を把握し、職員間で情報共有し、思いや意向の把握に結びつけている。思いの把握が困難な場合は、家族に相談したり、職員間で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族から情報収集した生活環境や生活歴を参考にしている。また、かかりつけ医・居宅のケアマネ等にも情報の提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人別のチェック表、介護記録などを参考に申し送りがされ、精神的・身体的状態などの現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族からの意向を大切に、アセスメント・モニタリングに基づき状態の変化に合わせたケアや作業提供の変更をユニット会議(担当者会議)にて検討し介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、本人や家族の意向をふまえ、医師や訪問看護師、管理者の意見を参考に、カンファレンスを実施して話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月・6ヶ月毎にユニット会議でモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状態の変化に応じて、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	チェック表や状況・状態がしっかりと分かるよう記入されている介護記録を基に、日々の申し送りやユニット会議にて情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	基本的な一日の流れはあるが、心身の状態や家族の希望に合わせてその時々に応じ個別ケアが行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域、またボランティアの方々の協力を得ながら楽しみのある暮らしが送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診対応の病院と連携が図られているが、本人の希望・家族の意向も大切に、家族の協力のもと、受診も支援されている。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診と必要に応じて受診の支援をしている。かかりつけ医は24時間体制で、電話連絡で指示・状況で往診に来て頂ける体制が出来ている。又、看護師ともコミュニケーションが取れていて、些細な変化も報告し指示を受けている。他科受診は家族中心で、事業所も支援している。受診結果は電話や面会時に家族に伝え、職員は「気持ちシート」に記録し、朝夕の申し送り時に伝えている。	

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設の看護職員も利用者の状態把握はできているが、かかりつけ医の看護師も気軽に相談に応じて下さり、適切な看護が受けられている。また、状態に応じ医師の指示のもと訪問看護も導入している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院先でも安心して治療が受けられるよう施設での生活状況等、できるだけ詳しく情報提供し、本人・家族の意向も聞きながら担当の医師、看護師などと連携を密にしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合など「終末期における対応についての同意書」にて、グループホームで可能な対応を説明し、本人・家族の希望される対応などについても、お話を伺っている。又、夜間の往診・訪問看護も受けられる体制となっている。	契約時に、指針に基づいて、重度化した場合に事業所が出来る対応について、移設を含めて本人や家族に説明している。重度化した場合や終末期のあり方については、主治医を中心に早い段階から本人及び家族等と話し合い、本人にとって最良の選択が出来るように支援に取り組んでいる。看取り支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルや書籍も、すぐに見られる場所に置くなどの配慮がされており、ユニット会議でも勉強会を行っている。また急変や事故発生時には、いつでも主治医への連絡が取れる体制となっている。定期的な訓練とまではなっていないが不安に思う職員がいれば、いつでも意見交換・訓練を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設では運営推進会議も兼ね防災訓練が行われている。その際消防署の視察を受け、地域の方々からも意見を頂き、注意点の明確化やノウハウを身につけている。この度、二次災害時対応についての勉強会と訓練も行った。可能な限り自治体などの訓練にも参加している。	年2回災害訓練を実施しており、1回は消防署の協力を得て、昼夜間想定火災通報・消火・避難・誘導訓練を利用者と一緒に実施している。又、もう1回は、自主訓練を実施している。学区の防災訓練に参加し、地域の方と交流し地域住民の協力を頂けるようお願いしている。	近年、風水害や地震等、全国的に予期せぬ災害が起こっており、当地域も例外ではないように思われますので、災害に備えて、職員間、地域の方々との連携を強化される事を期待します。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念「人間としての尊厳」に基づき、個人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけ支援している。	施設内年間研修として人格を尊重し、プライバシー確保について研修を行い、細部に渡って継続している。排泄に対して耳元での声掛けや、パット等をさりげなく配慮する等の心配りがなされている。日々の生活を集团的に実施するのではなく、安全・安楽を考慮、確保しながら行っている。自らが主体的な生活者として、尊厳のある今を過ごせるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを多くとり、思いや希望が表しやすい環境づくりを心がけ、ゆっくりと傾聴することにより自己解決ができるよう働きかけている。また、発語が困難な方においては、表情より思いをくみ取る努力をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共同生活の場としての流れはあるが、本人の希望・ペースを尊重し、できる限り望む生活が送れるよう支援している。その日の日程の変更も可能な限り対応している。			

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している。	洋服は出来る限り本人様に選んで頂く事している。髭剃りも毎日の声かけにて習慣化しており、ウイッグの手入れや装着の支援等も行う事で、その人らしいおしやれをして過ごすことができています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	決められた献立はなく、その日の気候や皆の意見等でメニューを決め、一人ひとりの好みを考慮した施設内での手作りにこだわっている。出来る事は参加していただき、職員も一緒に食事をする事で楽しい時となっている。	食事は、3食とも事業所で作り、地域で採れた食材を新鮮な内に調理し、朝・昼・夕と目で見、音で感じ、味わって頂き、食への興味を楽しみに繋げている。日々の食事作りについても、野菜の皮むき、きざみ、米研ぎ、味噌汁等の味付け確認、盛り付けや配膳等、入居者一人ひとりの働ける力を、心身の状況に合わせて引き出すよう工夫している。利用者と職員は同じテーブルで、会話を楽しみながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立表に詳しく材料を記録することによりバランスの良い食事が提供されている。また、食事・水分の摂取量が個人別にチェックされている為、必要摂取量が確保されている。また、嚥下状態の悪い方には個々の状態に合わせた食事形態にて提供する等の配慮もされている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時と毎食後に声かけ・誘導を行い、能力に応じた介助法にて個別支援を行っている。また、義歯は毎日就寝中洗浄液に浸けて保管し、うがいは洗口液を使用するなど清潔が保たれている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人に合わせた声かけ・誘導を行い、パット交換の回数を減らすよう努めている。また昼夜でオムツの種類を変える等の配慮をし、自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを事前に排泄チェック表で把握し、本人からのサインを見逃さないようにし、さりげない形でトイレの誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々食事メニューを工夫し、家事やレクリエーション参加による適度な運動も心がけている。また、水分摂取量のチェックを行い摂取量の確保が困難な方には、好みの飲み物を提供する等の個別支援も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングに合わせることは難しいが、清潔保持の為だけでなく、足浴や多様な入浴剤を使用するなど、リラクゼーション効果も大切に、個別支援を行う事で楽しみの時間となっている。	入浴は3日に1回は入浴出来る様に支援している。職員と雑談をしながらゆっくりと入浴を楽しんでいる。職員は利用者の皮膚の観察の機会とし、体調によって清拭や足浴、シャワー浴で対応している。入浴したくない人には、無理強いせず時間をずらしたり言葉かけの工夫をしたり、入浴剤を使ったり、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活習慣継続の為、自室はベッド使用か和式生活をj選んでいただいている。また、本人様の馴染みの寝具を持参して頂くことにより、お昼寝や夜間も快眠されるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	常時、服薬説明書が備えてあり、いつでも確認可能。服薬チェック・バイタルチェックを記録することにより症状の変化が確認される。また居宅療養管理指導も受けており理解を深めることが出来ている。			

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人や家族より生活歴等の情報収集に努め、個々の趣味や生きがい昔やっていた事や、それに近い事ができる場面を提供し自信回復へとつなげ張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は出来ていない。本人から要望があった場合は、ご家族に協力を求めている。また日々の会話より得たすぐには実行できない要望は行事に組み込む等の配慮をし外食等を行っている。	気候の良い日は、散歩や近くの公園や桜並木に花見に出かけている。又、スーパーへ買い物に出かけたり、パン屋さんの車が事業所にやって来て、その買い物を楽しんでいる。春日池公園にバラの花やチューリップ、あやめの花を見に出かけている。コーヒージョップに、ワッフルを食べに出かけている。家族の協力を得ての外出、外食等に外出出来るように支援している。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人ではお金を所持していないが、支払い等に不安を感じられた時には、問題なく支払いが行われている事を詳しく安心されるまで説明している。少額をお小遣いとして預かり、施設で管理し本人が必要とされる物や薬の支払い等の代行をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族より了解が得られている方は、いつでも電話ができる。	
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じて壁飾りを変えるなど季節や雰囲気大切に、混乱を招かないよう文字や写真で印す等の工夫もしている。又、清潔が保たれた空間で居心地よく過ごせるよう一日2回の掃除と温度・湿度のチェックもこまめに行い快適に過ごせるよう配慮している。	明るく広いリビングは、台所から調理の音や匂いが漂って生活感があり、職員からも利用者からも声をかけやすい雰囲気になっている。フローア壁面には季節ごとの利用者、職員の手作り作品・ちぎり絵・行事の写真が飾られていて、落ち着いた雰囲気作りがなされている。又、観葉植物や季節の花を飾り、季節感を感じられるようにしている。温度や湿度に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士が過ごせるようテーブル席が分けられている。また、広いリビングには寛げるソファや椅子も各所に置かれ、共用空間であっても一人ひとりが、ゆっくりと自由に過ごせるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時、本人・家族に出来るだけ使い慣れた物や大切にしてきた物を持参して頂くようお願いしている。馴染みの家具や家族の写真、大切な品物が居室にあり、本人にとって居心地良く過ごせる空間が出来るよう配慮している。	入居時に今まで使っていた物を持って来て頂くようお願いし、テレビ・テーブル・衣装ケース・ハンガーラック・骨壺・時計・写真・家族の写真・塗り絵・生花等、一人ひとり居心地よく過ごせるよう配置、置き場所にも工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各室ドアに名前プレートや写真を貼るなどし、混乱しないよう配慮している。また必要な箇所に滑り止め・手摺り等を設置することにより、安心して自立した生活が送れるよう工夫している。	

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着を踏まえた理念とはなっていないが、ユニット内研修や個人の年間目標を立てる際に理念を踏まえた目標を立てて実践するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域の集まりやイベント参加のほか、運営推進会議の際は地域との交流を伝えるようにしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日常的に散歩や買い物に出かけ、あいさつを交わしたり、近隣の事業所が定期的に集まり、要請があった時は認知症サポーター養成講座を開催し、地域に向けて発信している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域に方の参加を呼び掛ける為にも、ホームの近況報告や行事を通して触れ合う事を重視し意見やアドバイスを頂き参考にしてている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	2か月に一度小地域ネットワークの集まりで、他事業所との情報交流や行方不明者などが発生した場合や緊急時等は連絡簿で迅速に協力体制をとっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為や“身体拘束”がもたらす3つの弊害の理解を深め、ホームの目指すものや抑制しない介護の取り組みを掲げ、ケアの向上に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学ぶ機会を持つようにし、会議で話し合う場を設け、理解や防止に努めている。スタッフの言動や関わりの頻度が影響し症状の悪化を招くか学び、虐待の芽を摘み取る“不適切なケア”への振り返りとも言える		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会はできてないが、すでに入居時から成年後見人制度を利用されている方がおり、理解を深めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時・入居時に管理者が説明し、納得や了解を得ている。十分な説明と一度ご本人さんを交えて見学等を勧めており、不安が少しでも解消できるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に家族を交えてお茶を飲んだり、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。何でも言ってもらえる関係づくりを日頃から心掛けており、会議や朝の申し送りでも共有している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	改めて場をもつというより、いつでも聞けるというスタンスで心掛けている。月に一度の定例会ではユニットごとの状態を伝える場を設け把握や改善に向けて話し合いをしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全体会議を年2回実施しており、認知症の理解を含め、各自が実践者としてステップUPできるようにしている。また研修の参加を惜しまず、と意識の共有につなげている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	希望する研修や講演会参加の体制である。参加の際は現場に活かせるよう環境づくりを援助している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修会や小地域ネットワークでは近隣の事業所が集まった際、情報交換や勉強会を行っている。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様にも一度ホームを見学して頂き、雰囲気を感じて頂きながら会話を勧め、要望などを引き出している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族から初回面会時に困っていることをお伺いしている。初期の段階では気持ちの変更もあるため、リラックスできるような話し方や傾聴しながら会話を進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族より状況・状態をしっかりと聞きし、必要な支援を分析している。在宅サービスの種類を知らない人もいらっしゃる為、内容に合わせて近隣の事業所の紹介も併せて行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームは一般家庭と同じだという思いで、できることを見極め、共同作業を促す等、理念をお伝えしながら暮らしを共に助け合う関係づくりをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に本人の状態を詳しくお伝えし、介護記録も見て頂き情報交換を行っている。家族との絆を深めるためにも外食や本人直筆の手紙を書く等、思いを伝える援助を行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	帰りたい気持ちの強い方や面会の少ない方でも電話で極力声をかけ、気軽に着てくださるよう援助している。知人・友人等どなたでも訪問しやすいようなホームであるよう日頃の様子をお伝えしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性の関係や難聴の方もおり、口調が強くなることもあるが、作業や会話を通して仲良く、時には音楽をかけるなど穏やかな関係が保てるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、地域のスーパーや祭りでお会いすることが多く、気軽に話してくださる。時には入居相談の紹介もあった。在宅復帰された方は現時点ではないが、施設同士の連携はあり、相談や援助に努めている。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	傾聴はもちろん、発語の困難な方についても生活や行動の把握、非言語コミュニケーションを重視し、小さな変化や新たな発見に気付けるようスタッフ間での情報の共有に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族より情報収集した生活環境や生活歴を参考にしている。サービスをすでに利用されていた生活状況や居宅のケアマネにも情報の提供をお願いしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録にて日々の現状の把握が伝えられ、申し送りやユニット会議で共有している。毎日の小さな気づきの感性にもスタッフの取り組みで日々の生活につなげている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントで現状を踏まえ、本人、家族・各担当にて要望・助言を頂きながらアイデアを出し合い、作成に取り組んでいる		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々入居者と関わりながら、ちょっとした言動や気付き等を気持ちシートや危険予知シートに記載し、ケアプランに反映しながら実践につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一日のスケジュール的なものはあるが、心身の状態に合わせて食事・入浴時間等、臨機応変に個別の対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	駐車場から店内に入りやすいスーパーでの買い物や地域の行事に参加している。個人が暮らしの中で楽しみを感じられるよう援助している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診で病状の安定を図っている。往診時には必要に応じて家族への同席をお願いし、つながりを大切にしている。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急時の対応・情報の共有・相談において、異常の早期発見・予防に努めるようにしている。医療的な相談はもちろん、介護スタッフの対応にも助言していただき、支え合う関係で援助している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後にスムーズに生活できるよう、注意点を退院前に引き継ぎ、本人家族の意向を聞きながら連携をとっている。入院時も定期的にお見舞いに行き、普段の様子をお伺いしながら情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の段階で家族に説明をし、本人・家族の希望の元、ホームでの可能な対応を説明している。夜間の往診、訪問看護も受けられるような体制をとっており、医療・家族との連携をで家族の気持ちの寄り添いながら援助している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	いざというときに慌てず、対応できるようマニュアルを常備し、迅速に行動に移せるよう、定期的な集団研修で学習している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2階の火災訓練は定着しており、消防署の職員からの助言もいただいている。今年から初めての試みであるが、巨大地震を想定しての防災計画の作成や防災訓練を実施した。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人を尊重し、安心感を与えるような言葉使いの配慮に注意している。理念を念頭に置き、本人の自尊心を損ねることがないように心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを多く取る関わり方で思いや希望を引き出しやすい環境づくりを心掛けている。発語がこんな方については表情から思いをくみ取るよう働きかけ、スタッフ間で情報を共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者1人ひとりが生活の主体である事を念頭に置き、思いを尊重するように心掛けている。何か困った事があるか？ 今日何が食べたいか？ など。反対にその日や気分が乗らなくても、本人の体調やペースを尊重し、援助している。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の好みの洋服はもちろん、帽子やアクセサリーの着用やお化粧をすることで気持ちが晴れやかになり、コミュニケーションの活性化につながっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者とスタッフは同じものを食べ、会話をしながら楽しい食事時間となるよう努めている。また可能な方は洗い終わったトレーやテーブルを拭いていただく等の作業をお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に食事・水分量のチェックを行っている。少ない方に対しては食べやすい形態や好きなものなど、その都度工夫し、提供している。嚥下状態が悪い方は食事前の嚥下体操やトロミを使用するなど、食べられる口を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛け・誘導にてスタッフの見守りの中、自力での洗浄や介助にて毎日の口腔内の清潔を援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿・便意なくとも日中は立位の可能な方はトイレでの排泄に繋がるよう誘導し、座るよう促している。間隔の空いた方は声掛けの配慮を行い、スムーズな排泄に繋がるよう援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	間隔の空く方は、食品にて腸の動きを促し、活性化を図っている。乳飲料や食物繊維の多い食べ物の摂取し、薬だけに頼らないケアに努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人が入浴を楽しめるよう、音楽を流したり、壁にキャラクターのシールを貼る等、遊び心やコミュニケーションをとりながら、気持ちよくつなげている。体調や気分も考慮し、曜日の変更も臨機応変に行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	気持ちよく眠れるよう、寒暖の調節、状態により体位変換を行っている。興奮して眠れない方には傾聴を欠かさず、落ち着いたまで傍で寄り添い、安心感のもと、ベッドで休んでいただく等、環境設定を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導も受けており、内服薬の説明はもちろん副作用や症状の変化にも常時相談ができるよう連携の確保ができています。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人や家族より今までの生活歴から情報を収集し、個々の趣味や生きがい等、昔行ってきた事やそれに近いことができるような場面の提供を行い、喜んでいただけるような時間の共有や自身につなげている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日ではないが、買い物にお誘いしたり、外食を楽しみにされている方は家族にもお祝い、好きなものを食べに行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望により、おこづかいから希望のものがあれば一緒に買物に行った際に購入している。また本人自身での管理を希望される場合は家族の了解のもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があれば、電話も援助している。難聴の方、会話が難しい方、文字を書くことが難しくなっている方でもスタッフがパイプ役となり、普段の様子をお伝えするなど、家族とのつながりを大切にしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気を大切にしつつ、混乱を招かないよう分かりやすくポスターを貼ったり、季節の飾り付けや本人の色を付けた塗り絵やホームでの生活の写真を飾ったりなど、工夫して取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席でゆっくりくつろいだり、ソファーに腰掛けてテレビを見たりお昼寝したりなど、好きなように過ごしていただいている。クッションや足台、マッサージ機等も自由に利用していただいている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使い慣れたものを持参していただいている。家族や孫の写真や使い慣れたバッグ、時計・化粧品等馴染みのものや思い出のあるものが居室にあることで、心地よく過ごしていただけるよう援助している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目的地にスムーズに辿り着きやすいよう、各室ドアには文字や記号で示すなど、混乱しないような配慮を行っている		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており信頼関係ができています。	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ひよし

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひよし

作成日 令和2年1月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29	地域資源を活かし、事業所のアピールの工夫が必要	地域が開催する行事へ積極的に参加し、入居者を交えながら、地域と家族を結ぶ	運営推進会議で情報を得たり、作品などを通して地域の方との関わる機会を増やす	R2.1月～R3.3月
2	35	火災以外の想定される災害訓練の定着化を図る	組織として動くために慌てず行動できるよう教育・備え・訓練を積極的に行う	防災計画に基づき、火災が発生しても、混乱しないよう役割分担や備蓄品の補充等、反省点や改善策を立てる	R2.1月～R3.3月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。